令和５年度　東京都内湾水生生物調査　８月稚魚調査　速報

●実施状況

令和５年８月１日に稚魚調査を実施した。天気は曇りであったが、城南大橋と葛西人工渚での調査の間に雷を伴う大雨があった。気温は 26.6～32.0℃、風向は南東、風速は最初の調査地点であるお台場海浜公園では 0.7m と穏やかであったが、それ以降の地点では 3.9～4.5m であった。調査当日は大潮で、干潮は 10 時 42 分、満潮は 17 時 50 分であった（気象庁のデータ）。また、お台場海浜公園と城南大橋では赤潮が発生していた。

お台場海浜公園ではハゼ科仔魚が非常に多く出現したほか、カワハギが本調査で初めて出現した。

	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
作業時刻	8:50-10:12	10:33-11:43	14:05-15:48
水温(℃)	28.7	30.1	28.7
塩分(-)	19.8	20.9	13.9
透視度(cm)	37.0	16.0	11.5
DO(mg/L)	7.9	7.5	5.8
DO飽和度(%)	114.6	112.1	81.6
波浪(m)	0.0	0.1	0.1
pH(-)	8.5	8.2	8.0
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考	海水浴イベント用フェンス設置中のため、調査地点を西側にずらして実施。 沖合の水質観測点では、赤潮が発生していた。	沖合の水質観測点では、赤潮が発生していた。	調査前に雷を伴う大雨が降った。

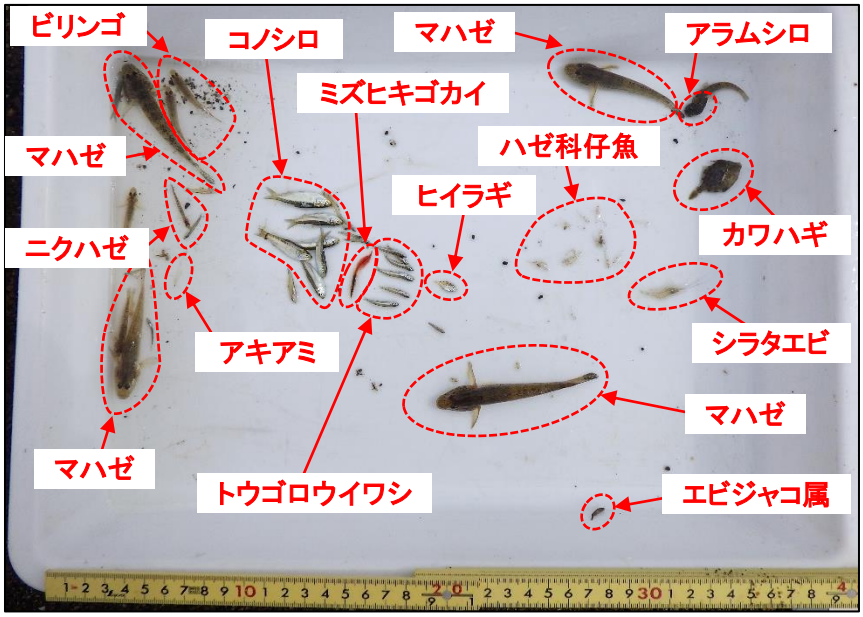
●主な出現種等　（速報のため、種名等は未確定）

主な出現種等	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
魚種 （多い順注）	ハゼ科仔魚(G)	マハゼ(c)	マハゼ(c)
	マハゼ(c)	コノシロ(c)	エドハゼ(+)
	ビリンゴ(c)	マゴチ(r)	トラフグ(+)
	コノシロ(+)	ギマ(r)	カライワシ(+)
	ヒイラギ(r)	コショウダイ(r)	ビリンゴ(+)
魚類以外	ニホンイサザアミ(m)	ニホンイサザアミ(G)	シラタエビ(G)
	エビジャコ属(+)	エビジャコ属(r)	エビジャコ属(r)
	アキアミ(r)	ユビナガスジエビ(r)	ガザミ(r)
備考	他にニクハゼ、カワハギ、トウゴロウイワシ、アラムシロ等が採集された。	他にヨウジウオ、チチブ属等が採集された。	他にボラ、コノシロ、チチブ属、タカノケフサイソガニ等が採集された。 また、調査直前の大雨により、植物片が多量に入網した。

注）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

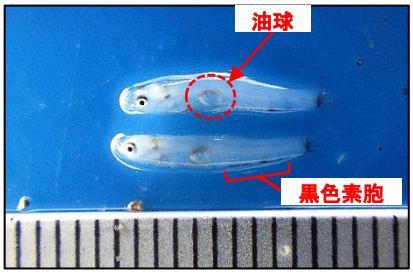
お台場海浜公園　採取試料



水際数 m で急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。管理棟東側に海水浴用フェンスが設置されていた。

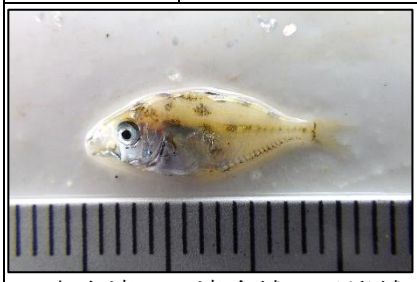
●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

ハゼ科仔魚



着底前のハゼ科の仔魚は腹部に浮力調整のための油球がある。東京湾奥部で 6～8 月にかけて多数出現するハゼ科仔魚はチチブ属であることが多く、尾柄に黒色素胞が並ぶことが特徴。

ヒイラギ

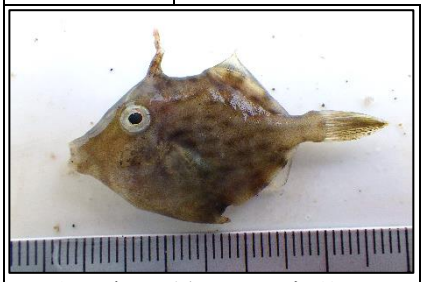


東京湾では湾全域の干潟域や漁港等でみられる。干潟域には体長 6～7mm 程の稚魚が 6～8 月にかけて来遊し、動物プランクトンを食べて成長する。

ニクハゼ

東京湾に出現するハゼ科のうち、高塩分の環境を好む種。アマモやアオサが繁茂するやや静穏な海域で見られることが多い。体長 2cm 程になるまでは、体色が肉色をしており、名の由来となっている。

カワハギ



浅い海の砂混じりの岩場でよくみられる。群れで遊泳し、小型の甲殻類や貝等を食べる。砂の上を逆立ちした姿勢で口から水流を吹き出し、砂の中の餌を探す。湾奥での出現記録は少なく、稚魚調査では初めて確認された。

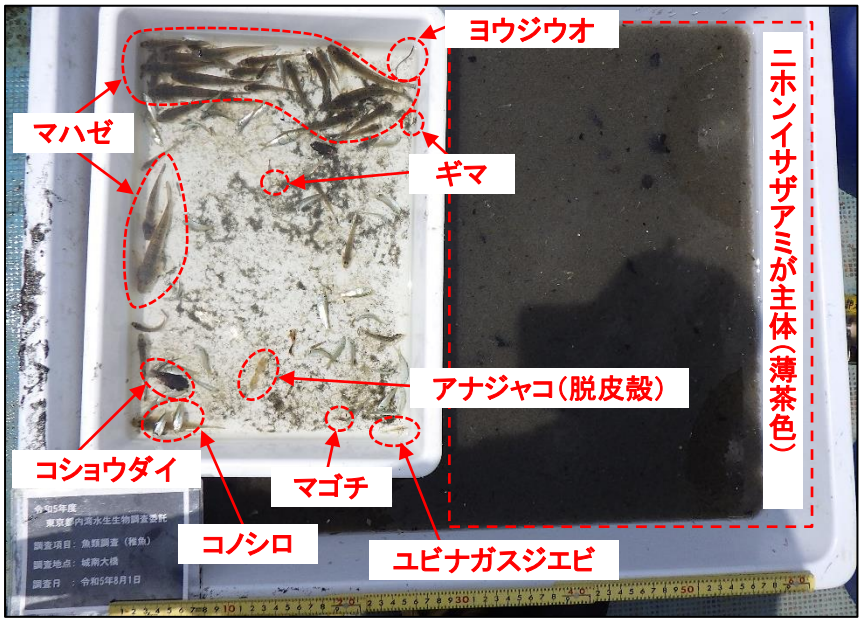
マハゼ

東京湾を代表するハゼの仲間。河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、冬になると産卵のため深場へ移動する。

ビリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。早春にアナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて河川上流側に移動する。

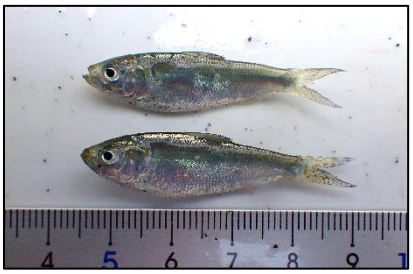
城南大橋　採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。北側には東京港野鳥公園がある。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

コノシロ



東京湾を代表する魚の一つで、内湾や河口域に生息する。産卵期は春から初夏で、孵化した仔魚は内湾の干潟域等の浅所でもみられる。

マゴチ

内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息する。産卵期は 4～7 月。成長するにつれて徐々に深場へと移動する。肉食性で、小魚等を食べる。

ギマ

カワハギに近い仲間。干潟域等の浅所で、夏から秋にかけ 1～5cm 程度の幼魚が出現する。平成 7 年頃から東京湾で確認されることが多くなったが、本調査では 5 年ぶりの出現となった。

コショウダイ

湾奥から外湾にかけての干潟域等の浅所で、夏から秋に体長 3～10cm 程度の幼魚がみられる。尾鰭以外は褐色で、枯れ葉に擬態していると考えられる。成長に伴い体色が変化し、成魚は全体に黒色の斑紋が散らばったようになる。本調査では 5 年ぶりの出現となった。

チチブ属

チチブまたはヌマチチブの稚魚。成魚は生息域の違いや、頭部の白斑の粗密等で区別されるが、稚魚は未発達のため見分けることは難しい。東京湾では 6～9 月が産卵期となり、干潟域や人工海浜等で孵化した大量の仔魚が浮遊生活を送る。

ヨウジウオ

ヨウジウオ科では東京湾で最も普通にみられる種。湾奥から外湾にかけてのアマモ場で多くみられる。全長 30cm 程度になるが、本調査では 10cm を越える大きな個体が採れることはまれ。

葛西人工渚　採取試料

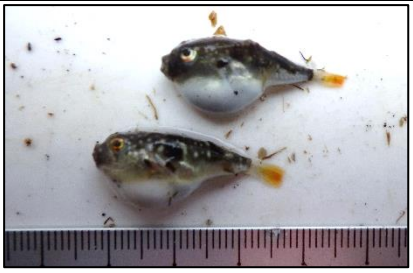
東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

エドハゼ

一生を干潟域で生活する小型のハゼ。成魚はアナジャコ等の巣穴を隠れ家とするほか早春には産卵場所として利用している。そのため、成魚になると網での採集が難しくなる。

トラフグ

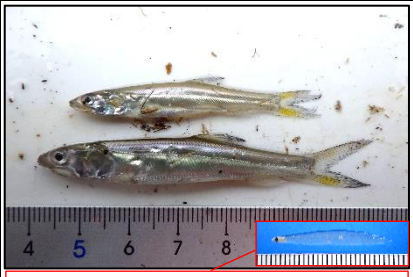


成長すると 70 cm程になる。胸鰭の後ろ斜め上の黒斑が白く縁どられていることで、クサフグ等と見分けられる。稚魚期は河口域でみられることも多い。

コノシロ

※解説は城南大橋を参照。
本地点では稚魚が採取された。

カライワシ



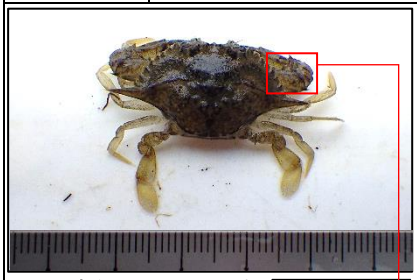
レプトケファルス幼生
平成 22 年 9 月葛西人工渚にて出現

東京湾では内湾の干潟域や外湾の砂浜海岸で体長 3cm 程度の仔魚(レプトケファルス幼生)が 7～9 月にみられることが多い。成長すると体長 75cm 程度になる。

ボラ

東京湾内湾に多く生息する海水魚で、春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。成長するにつれて、ハク→オボコ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。

ガザミ



甲幅が 10cm 以上になる大型のカニ。「ワタリガニ」とも呼ばれる。内湾の浅海域に多い。ハサミ脚の長い節にある 4 本のトゲが特徴。